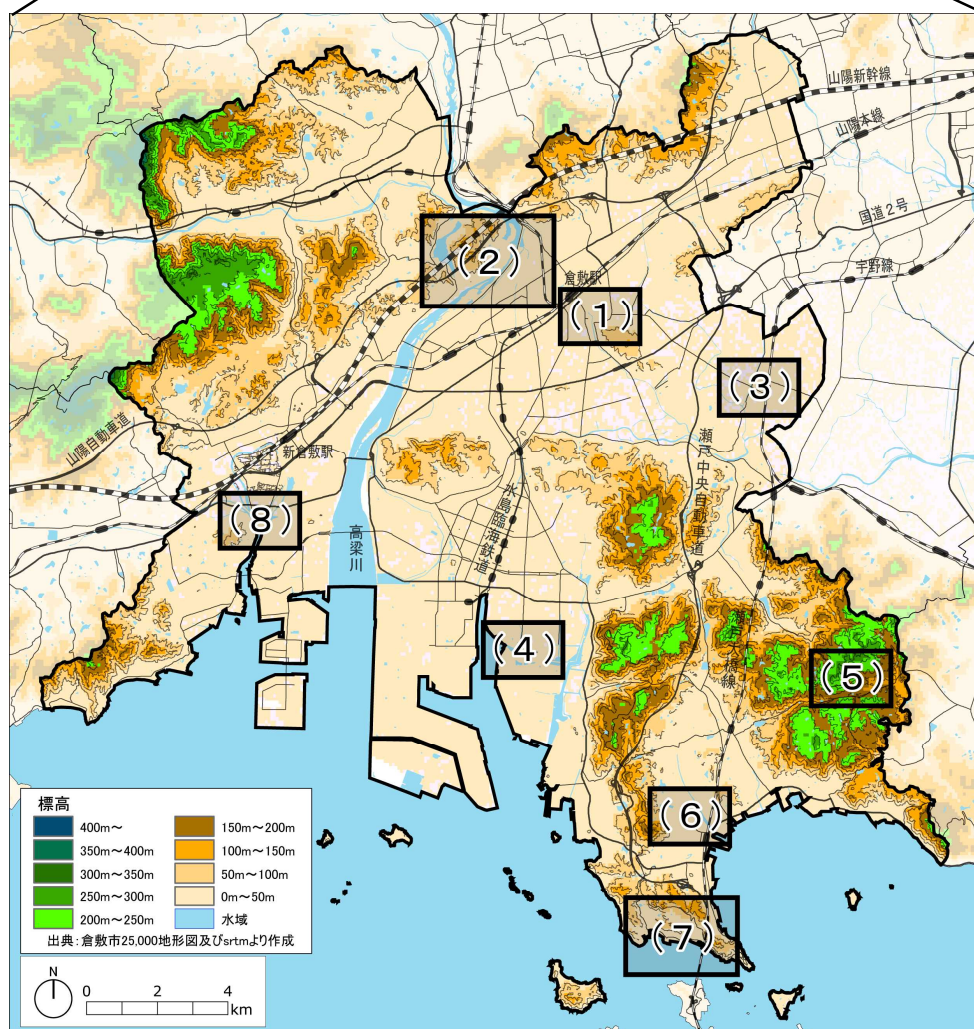
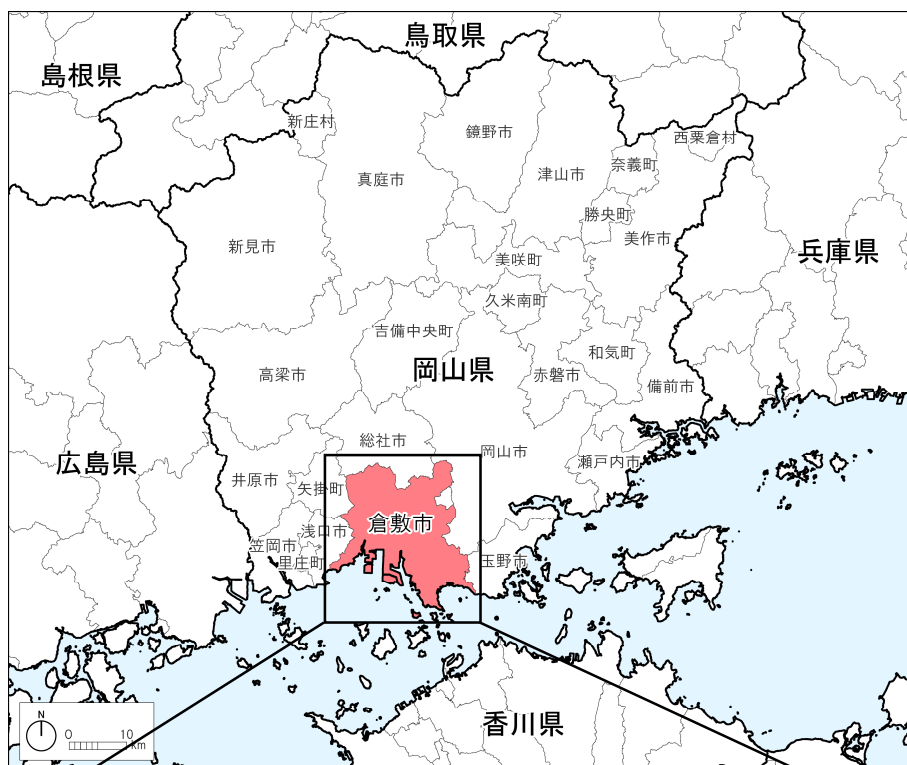


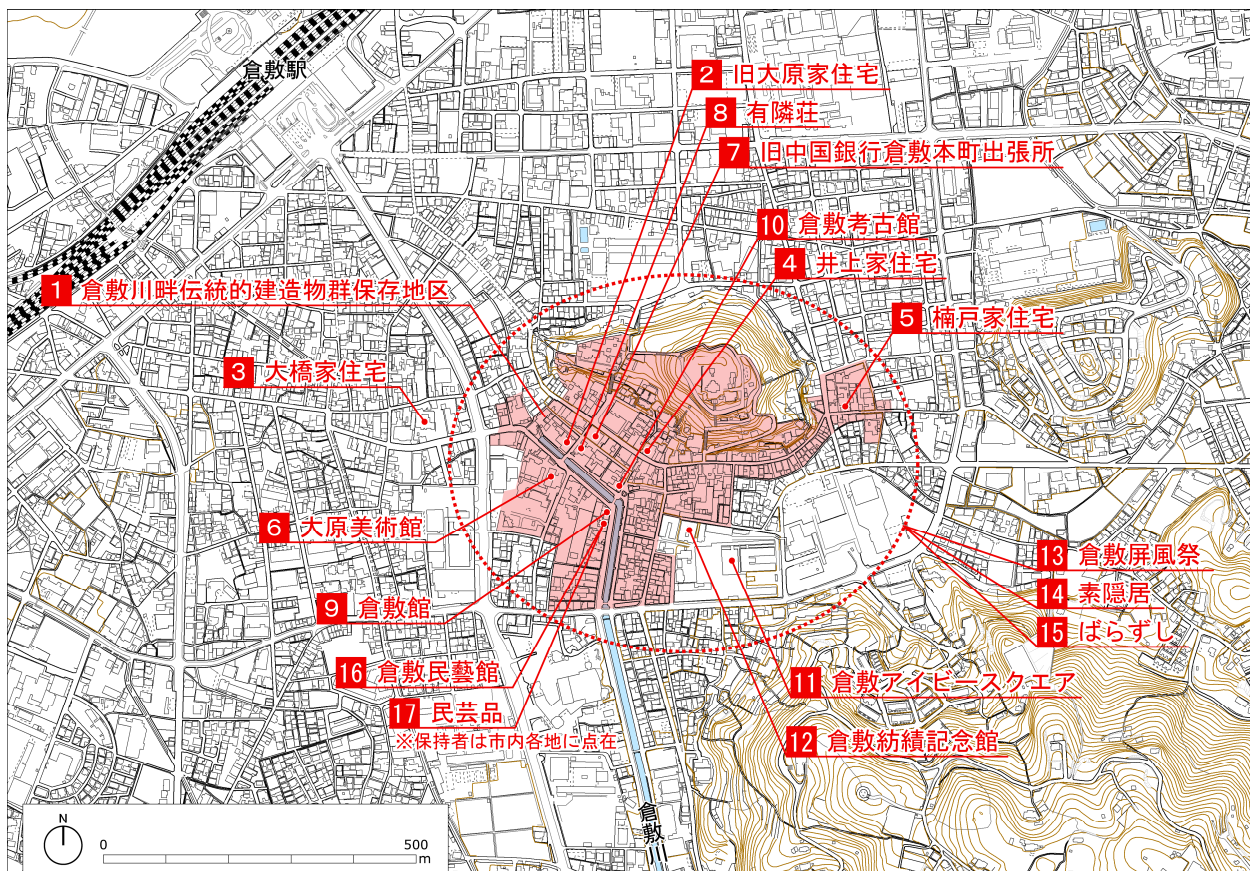
① 申請者	倉敷市	② タイプ	地域型 / シリアル型 ① A B C D E				
③ タイトル							
<p>一輪の綿花から始まる倉敷物語 ～ 和と洋が織りなす繊維のまち ～</p>							
④ ストーリーの概要（200字程度）							
<p>400 年前まで倉敷周辺は一面の海だった。近世からの干拓は人々の暮らしの場を広げ、そこで栽培された綿やイ草は足袋や花筵などの織物生産を支えた。明治以降、西欧の技術を取り入れて開花した繊維産業は「和」の伝統と「洋」の技術を融合させながら発展を続け、現在、倉敷は年間出荷額日本一の「繊維のまち」となっている。</p> <p>倉敷では広大な干拓地の富を背景に生まれた江戸期の白壁商家群の中に、近代以降、紡績により町を牽引した人々が建てた洋風建築が発展のシンボルとして風景にアクセントを加え、訪れる人々を魅了している。</p>							
 <p>和・洋が融和した町 (旧大原家住宅と大原美術館)</p>		 <p>旧倉敷紡績所倉敷本社工場 (現倉敷アイビースクエア)</p>		 <p>今に続く伝統的な繊維製品</p>			
⑤ 担当者連絡先							
担当者氏名	倉敷市教育委員会生涯学習部文化財保護課 福 本 明						
電 話	(086) 426-3851		FAX	(086) 421-6018			
E-mail	cltprpt@city.kurashiki.okayama.jp						
住 所	岡山県倉敷市西中新田640番地						

市町村の位置図（地図等）

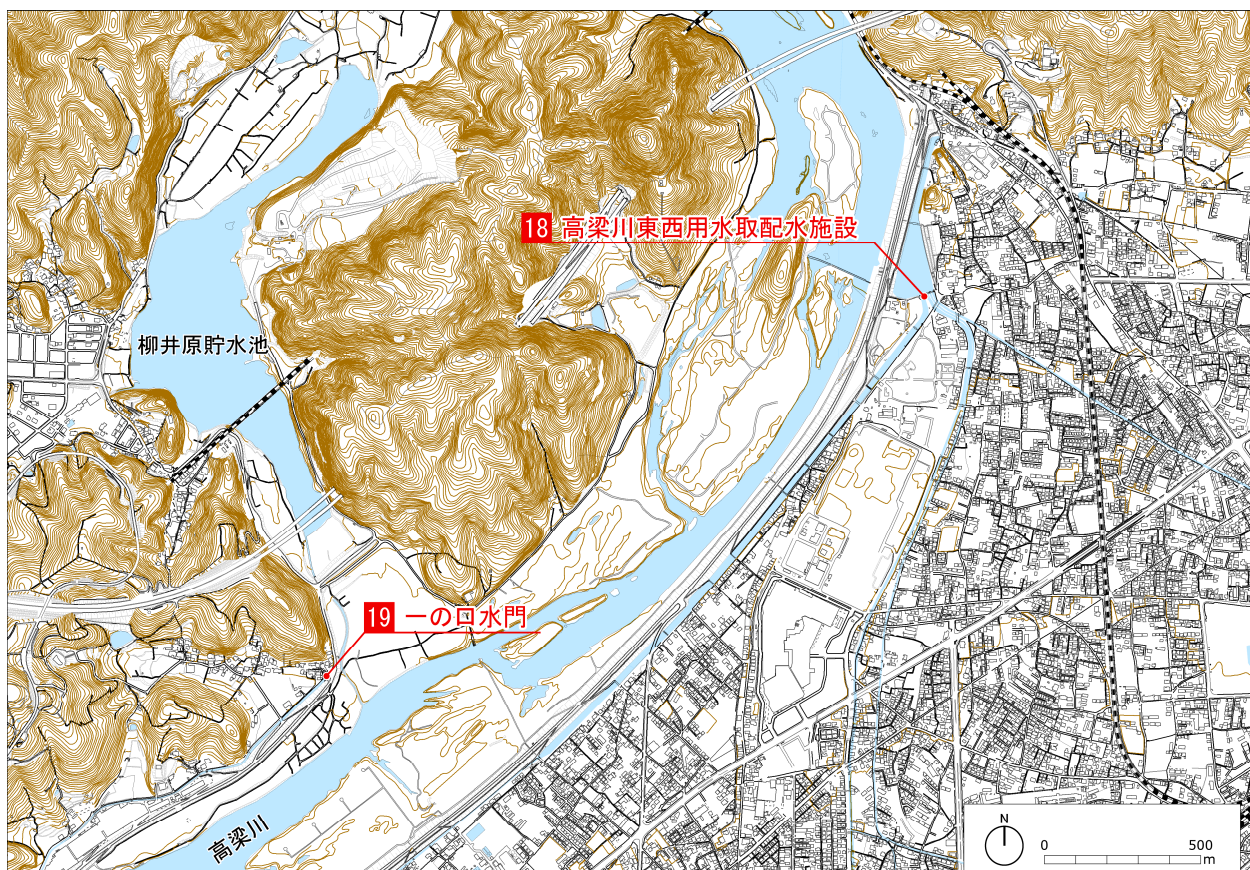


構成文化財の位置図（地図等）

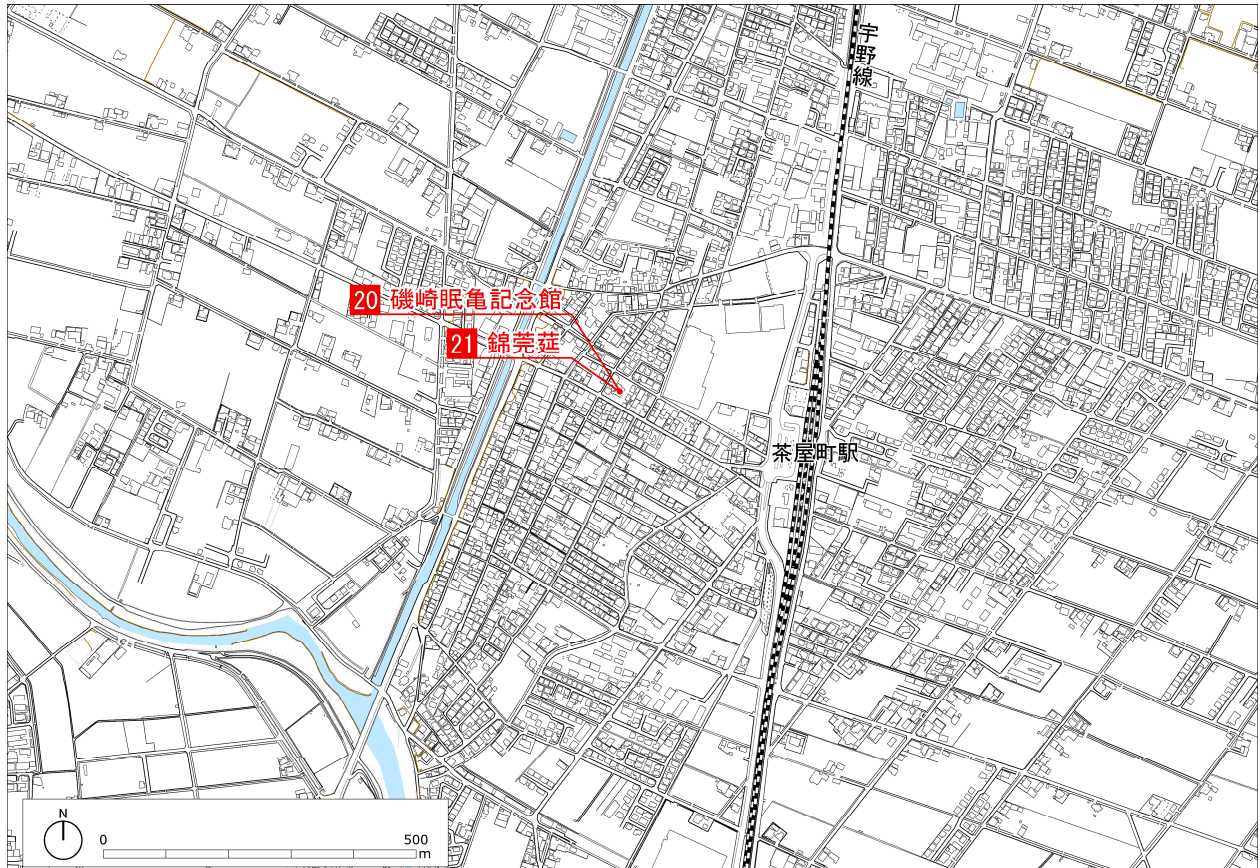
（１）倉敷地域（その１）



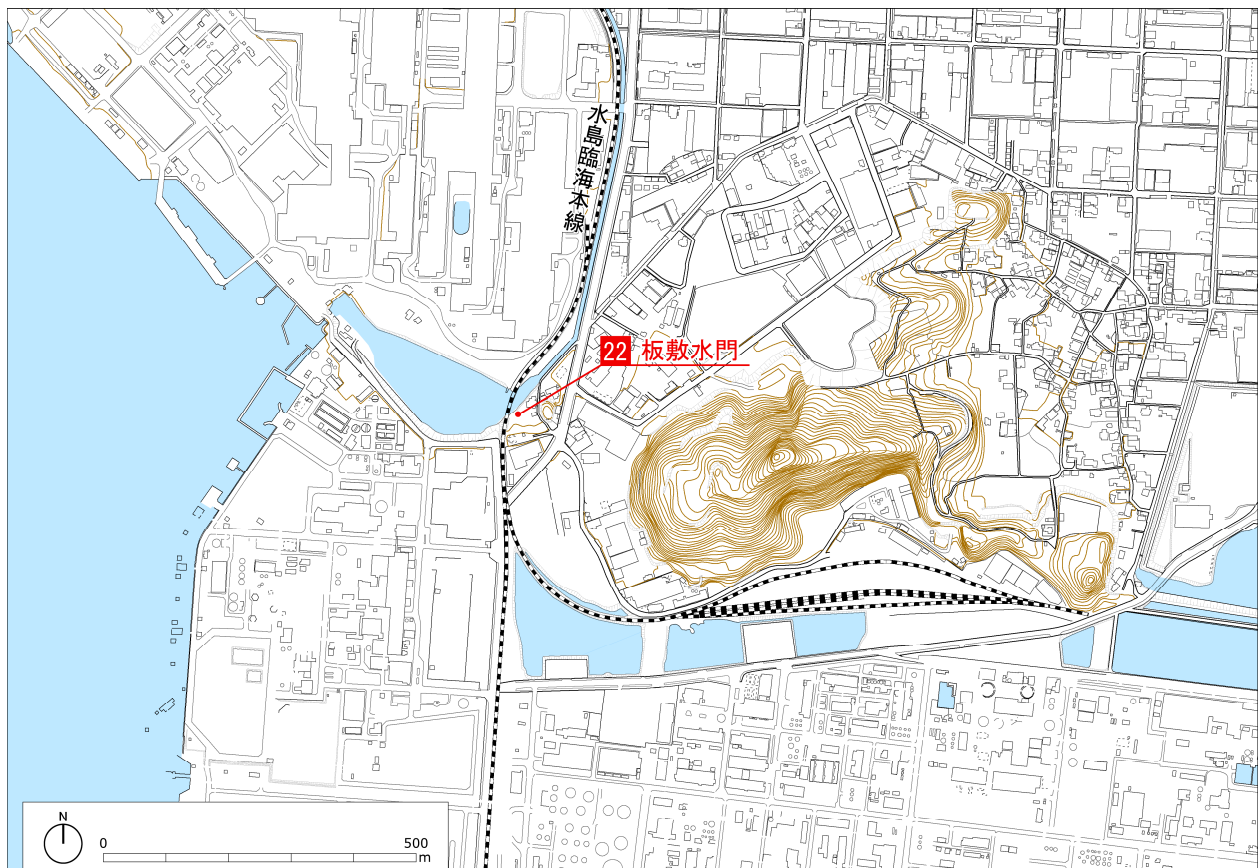
（２）倉敷地域（その２）・船穂地域



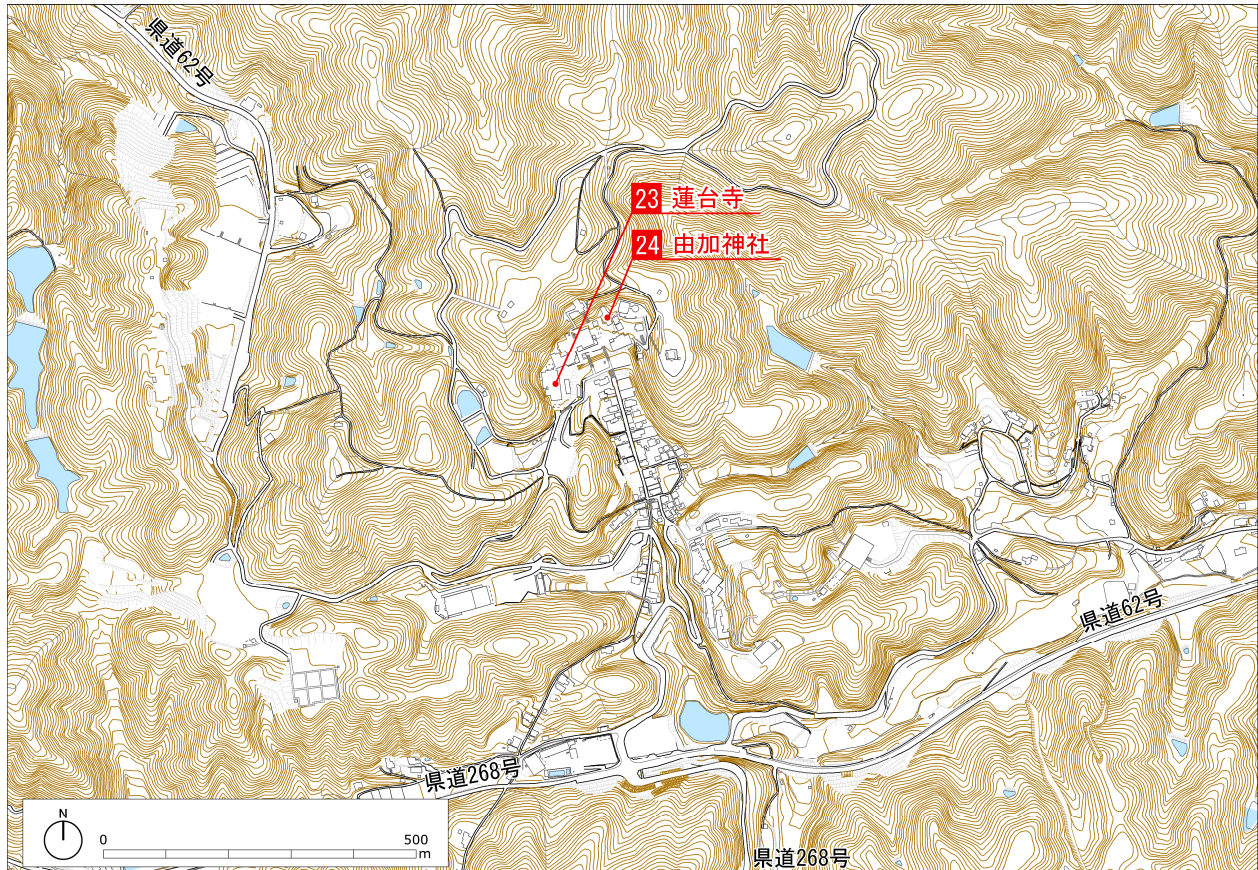
(3) 茶屋町地域



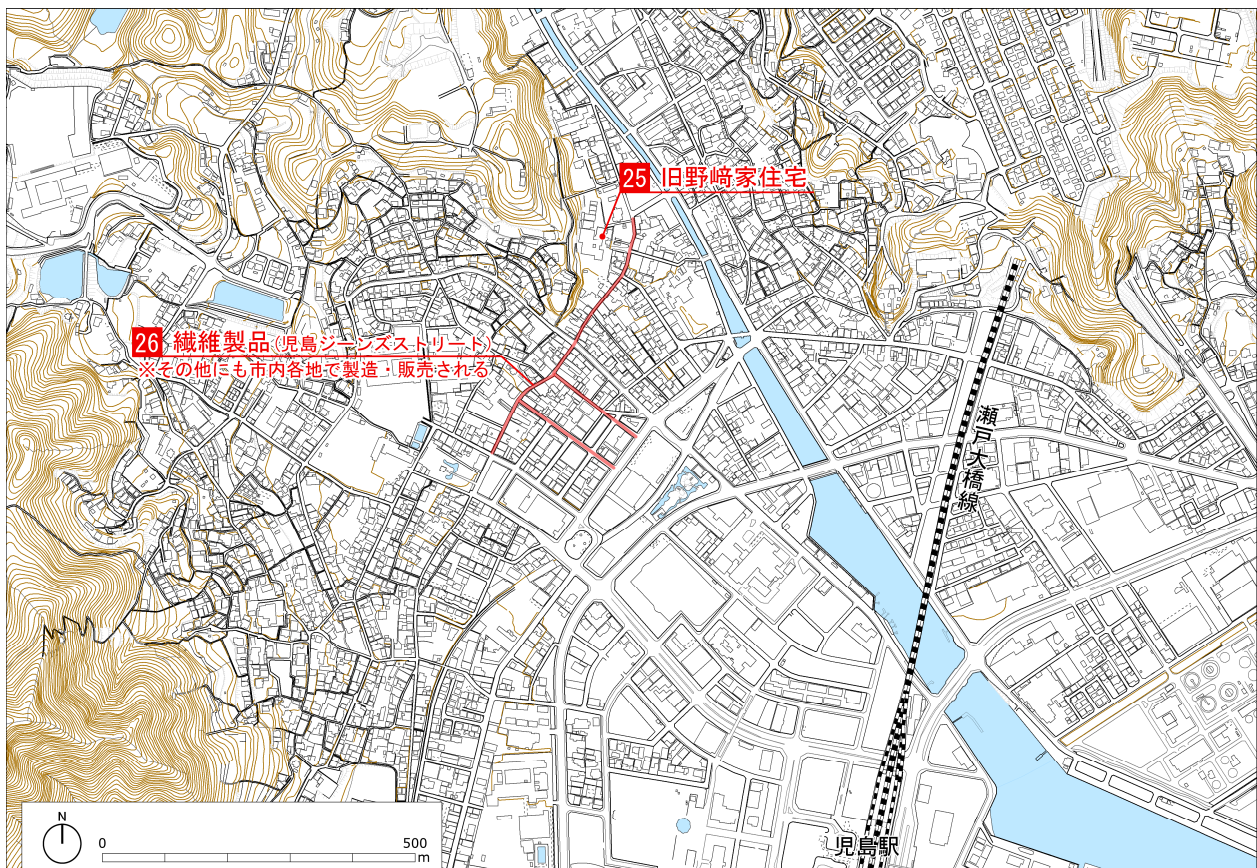
(4) 水島地域



(5) 児島地域 (その1)



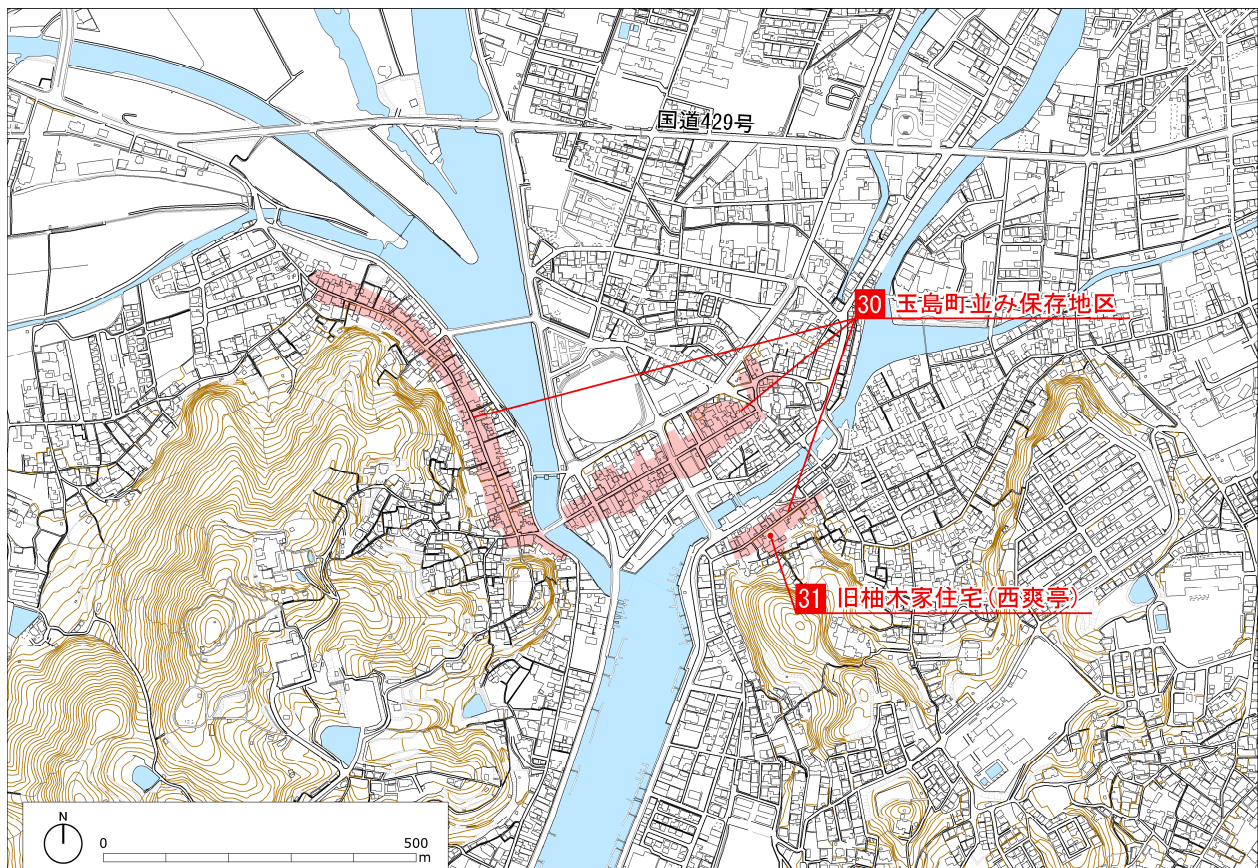
(6) 児島地域 (その2)



(7) 児島地域 (その3)



(8) 玉島地域



ストーリー

◇はじめは、一輪の綿花

倉敷市が位置する岡山県の南部一帯は、かつては「吉備の穴海」と呼ばれ、大小の島々が点在する一面の海だった。その広大な浅海は高梁川の沖積作用で徐々に浅くなり、近世以降の干拓によって陸地に姿を変えていった。干拓されたばかりの土地は塩分が多く、米作りには向かない。そこで塩に強い綿やイ草が栽培され、本市の繊維産業の礎が築かれたのである。始まりは干拓地に植えられた一輪の綿花だった。

現在は、近世に造られた水門や、近代の高梁川改修事業によって建設された国内最大級の現役樋門である「高梁川東西用水取配水施設」などにより、その干拓地へ豊富な水が供給され、倉敷市域繁栄へとつながっている。

◇綿花産業の富が育んだ天領倉敷

倉敷は寛永 19 年(1642)に幕府直轄地、いわゆる「天領」となって以降は、周辺の直轄領を支配する政治の中心地であると同時に、備中南部の物資集散の中継地として発展した。特に江戸中期以降、干拓地で綿やイ草などの換金作物が盛んに生産されるようになる。その様子は江戸後期の紀行文にも「見渡す所の田地に、過半は綿を植えたり」と記されるなど、付近の干拓地一面に綿畑が広がっていたことがうかがえる。

運河として利用された倉敷川の周辺は綿などを扱う問屋や仲買人で賑わい、成功した商人たちは豪壮な屋敷を建てその富を誇った。現在も倉敷川沿いには、川港の繁栄を物語る当時の荷揚げ場や路地の石畳、常夜灯などが残り、綿花産業の富を象徴する白壁の商家の建物が軒を連ねている。その質実で無駄のないデザインは、重厚さの中にも明るさを備え、往時の商人たちの活躍を今に伝える。

綿の集荷の中心であった倉敷や玉島、由加門前町で土産物としてもてはやされた真田紐や小倉織を生産した児島は地域の繊維産業発展の基盤であった。港町では綿作の肥料となる干鰯やニシン粕が買われ、原綿、くり綿が出荷された。玉島港の記録によると、売り買いされる商品の実に 9 割が綿関係で占められるほどであったという。この「備中綿」こそ倉敷地方に富をもたらした源だったのである。

◇伝統の技が生んだ繊維産業

明治時代になると、政府は殖産興業のもと、外国産の綿糸に対抗するために民間紡績業の育成を奨励した。倉敷では国内最初の民間紡績所である下村紡績(倉敷市児島)、玉島紡績(倉敷市玉島)が明治 14 年(1881)に開業。続いて明治 22 年(1889)にはイギリス式の最新の機械と工場施設を備えた倉敷紡績所(現クラボウ)が倉敷代官所跡に創設されるなど、繊維産業の隆盛は地域の発展に寄与することになる。

綿と並んでイ草も干拓地を中心に江戸時代から盛んに栽培されていたが、明治に入ると、磯崎眠亀が明治 11 年(1878)に精緻な文様を織り込んだ高級花筵である錦莞筵を発明、3 年後には輸出を開始した。それに刺激されてさまざまな製品が考案され、北米や中国を市場とした重要輸出品目にまで成長し、全国一の花筵産地になった。



かつての吉備の穴海



川沿いの荷揚げ場や常夜灯



綿問屋が軒を連ねた港町玉島の町並み



錦莞筵(磯崎眠亀記念館)

また、伝統産業として育まれた織りや縫製の技術は、足袋、学生服、作業着などの多彩な衣料品製造へと展開した。特に大正以降、服装の洋風化によって、学生服が急速に市場に浸透、紡績～^{おんし}燃糸～織物～染色～縫製という一貫生産体制によって、昭和初期には全国の学生服の9割を児島産が占めた。戦後にはそうした縫製の技術を活かし国内初のジーンズを販売。児島は「国産ジーンズ発祥の地」と言われるようになり、その加工技術は世界のジーンズ産業に大きな影響を与えている。

このように倉敷の繊維産業は江戸期以来の伝統産業に最新技術を織り合わせながら発展を続け、現在では繊維製品出荷額国内第1位を誇る「日本一の繊維のまち」となったのである。

◇伝統を守りながら発展を続けるまちへ

倉敷の町では江戸期以来、干拓地からの収入を背景に、有力町衆の自治のもとで、「屏風祭」や秋祭りの「素隠居」、瀬戸内の魚介と旬の野菜類を鮮やかに盛りつけた「ばらずし」など、個性豊かな文化が育まれてきた。

明治以降、文明開化により紡績の産業城下町に生まれ変わった倉敷では倉敷紡績所が国内有数の紡績会社へと成長し、社長を務めた^{おおはらまごさぶろう}大原孫三郎は紡績業で得た富をもとに文化事業、社会事業、福祉事業などに取り組んだ。この中で、民芸運動への支援や農業研究所の設立など幅広い事業が展開され、現代につながる文化的な基礎が築かれるとともに、赤レンガの倉敷紡績所、ギリシャ神殿風の大原美術館をはじめとする多くの洋風建築が残された。これらはその時代、時代で、デザインと質の良さを追及して建てられており、江戸期の商家群の中にあって、当時の紡績業の隆盛を伝えるシンボルとして風景のアクセントになり、町の魅力を一層高めている。

戦後には孫三郎の長男で倉敷絹織(現クラレ)の社長であった^{そういちろう}総一郎により、昭和23年(1948)に倉敷におけるリノベーションの先駆けとなる倉敷民藝館が、昭和25年(1950)には倉敷考古館が設立された。また、昭和49年(1974)には代官所跡に建てられた倉敷紡績発祥の工場を再開発し、倉敷アイビースクエアが開業するなど、古い建物を時代に合わせて活用する試みが続けられてきた。現在でも町家や土蔵を改装したカフェやレストラン、素材を活かした手仕事による繊維雑貨を取り扱う店舗などが開店し、ものづくりに触れる場として、企画展や作家によるワークショップなどが行われている。

◇和と洋が織りなす繊維と町並みの倉敷物語

倉敷川には観光客を乗せた舟が行き交い、しなやかに揺れる柳の奥に見え隠れする町並みは、四季を通じて賑わっている。400年前までは、海とそこに浮かぶ島々であった倉敷。ここを干拓して栽培された一輪の綿花から始まる繊維産業は、倉敷を世界に誇る高品質な繊維製品を生み出す「日本一の繊維のまち」へと成長させるとともに、その発展の軌跡の中で形作られた伝統的な商家群と近代化を象徴する明治期以降の洋風建築が調和する町並みを創り出す礎となってきた。

倉敷の地を訪れ、美しい町並みを散策し繊維製品に触れると、和と洋が織りなしながら重ねられてきた倉敷の歴史文化とその魅力を体感することができる。



瀬戸内の幸、旬の野菜を使った「ばらずし」



祭りの名物「素隠居」



倉敷川畔の町並み

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	倉敷川畔 伝統的建造物群保存地区	国重伝建	江戸時代に干拓地からの富を背景に政治・経済の中心地となった。江戸期の商家群と明治以降の西洋建築が美しく調和する町並みが残る。	
2	旧大原家住宅	国重文 (建造物)	江戸後期から繰綿仲買商、米問屋、地主として村政を牽引し、明治以降、倉敷紡績の社長を務め、数々の西洋建築を残してきた大原家の邸宅。	
3	大橋家住宅	国重文 (建造物)	江戸後期、干拓事業や金融業などで財をなした大橋家の邸宅。倉敷を代表する商家の建築で、往時の富の大きさを感じさせる。	
4	井上家住宅	国重文 (建造物)	江戸時代初期から倉敷村の村政を担った井上家の邸宅。今から 300 年前に建てられた伝建地区内最古の建築で、倉敷の商家の原型を残す。	
5	<small>くすど</small> 楠戸家住宅	市重文 (建造物) 国登録	「はしまや」の屋号を持ち、明治 2 年(1869)の創業以来、現在も呉服店として営業を続ける明治期を代表する商家建築。	
6	大原美術館	未指定	倉敷紡績社長の大原孫三郎が画家児島虎次郎の業績を記念し、その収集作品を展示するため、昭和 5 年(1930)に建てた日本初の西洋近代美術館。	
7	旧中国銀行 倉敷本町出張所	国登録	大原孫三郎が頭取を務めた旧第一合同銀行の倉敷支店。建築家薬師寺主計が設計し、大正 11 年(1922)に建築された倉敷を代表する洋風建築。	
8	<small>ゆうりんそう</small> 有隣荘	未指定	昭和 3 年(1928)に建てられた大原家の別宅。薬師寺主計が設計、伊藤忠太、児島虎次郎も建築に関わっており、和洋折衷の優美な外観が特徴。	
9	倉敷館	市指定	紡績業が盛んであった大正 6 年(1917)に倉敷町役場として建てられた。伝建地区の中心に位置し、シンボルとなっている洋風建築。	
10	倉敷考古館	未指定	浜田屋小山家の蔵を改装し、吉備の考古資料を展示する博物館として昭和 25 年(1950)に開館。東壁一面の「なまこ壁」が特徴で、代表的な土蔵建築。	
11	倉敷アイビースクエア	未指定	明治期、旧代官所の跡地に建設された倉敷紡績所の工場。往時の紡績工場の建物が残り、現在もリノベーションによって観光交流施設として活用されている。	
12	倉敷紡績記念館	国登録	倉敷紡績の時代、原綿の倉庫として使われたレンガ造りの建物。昭和 44 年(1969)に倉紡創設 80 周年の年に改装され、記念館となった。	
13	倉敷屏風祭	未指定	江戸期、阿智神社の祭礼に始まる。各家が通りに面した格子戸を外し、屏風や花を生けて人々をもてなす。毎年秋祭りに合わせて開催されている。	

14	素隠居 すいんきょ	未指定	江戸時代, 年を取り秋祭りに参加できなくなった老人が面を作らせ, 代わりに参加させたことに始まる。団扇で叩かれると健康になるとされる。	
15	ばらずし	未指定	倉敷の商家では, 祭りの日に近隣の人や知人を自宅に招き, 瀬戸内の豊富な海の幸と旬の野菜を鮮やかに盛り合わせた「ばらずし」を作って振舞った。	
16	倉敷民藝館	未指定	江戸後期の米蔵を改装し, 昭和 23 年 (1948) に民藝館として開館した。倉敷の古民家再生の第 1 号であり, 数多くの民芸品が収蔵, 展示されている。	
17	民芸品	未指定	大原孫三郎が民芸運動を支援したことで, 倉敷に民芸文化が花開き, 酒津焼, 羽島焼, 倉敷ガラス, 緞通など数多くの民芸品が生まれた。	
18	高梁川東西用水 取配水施設 たかはしがわ	国重文 (建造物)	渇水期の紛争や水害対策のため, 大正期に行われた高梁川河川改修に伴い, 建築された農業用水の取配水施設。石張, 鉄筋コンクリート造。	
19	一の口水門	市指定	綿の売買で繁栄した玉島港と高梁川を結び, 高瀬舟による輸送を容易にするため, 江戸初期に整備された運河「高瀬通し」の起点となる閘門式水門。	
20	磯崎眠亀記念館 いそざきみんき	国登録	明治期にイ草を原料に錦莞莖を生み出し, 織物産業界で活躍した磯崎眠亀。その功績を記念し, 住居兼作業場を改築して資料を展示している。	
21	錦莞莖 きんかんえん	市重文 (歴史資料)	明治 11 年 (1878) に倉敷茶屋町の磯崎眠亀が発明した紋様を織込んだ花莖。国内外の博覧会で多くの賞に輝き, 海外への主要輸出品となった。	
22	板敷水門 いたじき	市指定	江戸後期の岡山藩による干拓の際に使用された排水水門。「嘉永二年 夏六月造」の銘が刻まれており, 干拓の歴史を現在に伝える。	
23	蓮台寺 れんたいじ	県重文 (建造物)	江戸期には岡山藩主池田家の厚遇を受けるとともに, 讃岐金毘羅大権現との両参りで賑わい, 門前町では小倉織・真田紐などがもてはやされた。	
24	由加神社 ゆが	県重文 (建造物)	神仏分離令により, 明治 5 年 (1872) 由加神社となったが, それまでは瑜伽大権現として, 金毘羅との両参りで賑わった。	
25	旧野崎家住宅	国重文 (建造物) 県史跡	江戸後期, 干拓により新田五ヶ村の名主役を拝命した野崎武左衛門の邸宅。敷地面積は約 3000 坪で, 建物延床面積は 1000 坪に及ぶ。	
26	繊維製品	未指定	江戸期の綿花栽培を基礎に生産が始まり, 明治期以降, 学生服, ジーンズ, 帆布, 畳縁など様々な製品が生産され, 品質は世界をリードしている。	
27	下津井町並み保存地区 しもつ井	未指定	瀬戸内海に面する港町で, 江戸時代には北前船による綿花, ニシン粕の取引港として, また讃岐金毘羅参りの宿場町として繁栄した。	

28	むかし下津井回船問屋	未指定	明治時代の回船問屋を改修した資料館。北前船の寄港地として賑わった下津井に関する資料が展示され、往時の商家の繁栄ぶりがうかがえる。	
29	下津井節	未指定	港町下津井に伝わる岡山県を代表する民謡。北前船の船頭達によって広まり唄い継がれてきた。唄い手日本一を決める全国大会が毎年行われている。	
30	玉島町並み保存地区	未指定	北前船と高瀬舟の水運により、干拓地で栽培された備中綿を売買する拠点となった。問屋が建ち並び、「西の浪速」と呼ばれるほど繁栄した港町。	
31	旧 ^{ゆのき} 柚木家住宅(西 ^{さいそうてい} 爽亭)	国登録	備中松山藩に仕えた玉島の庄屋・柚木家の旧宅で、玉島町並み保存地区に残る江戸中期の庄屋建築。往時の港町の繁栄を見ることができる。	

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

1 倉敷川畔伝統的建造物群保存地区



4 井上家住宅



2 旧大原家住宅



5 楠戸家住宅



3 大橋家住宅



6 大原美術館



構成文化財の写真一覧

7 旧中国銀行倉敷本町出張所



10 倉敷考古館



8 有隣荘



11 倉敷アイビースクエア



9 倉敷館

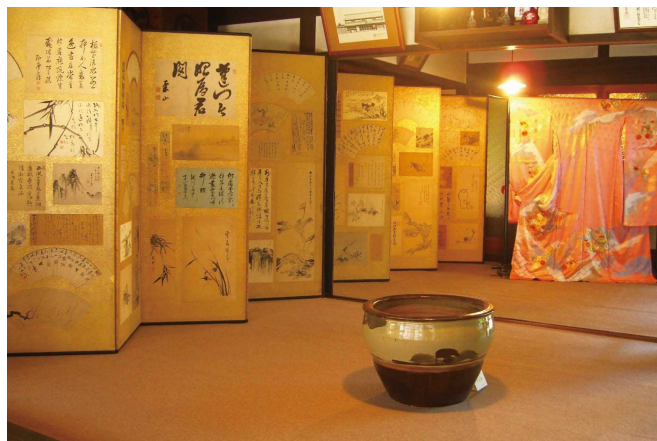


12 倉敷紡績記念館



構成文化財の写真一覧

13 倉敷屏風祭



16 倉敷民藝館



14 素隠居



17 民芸品



15 ばらずし



18 高梁川東西用水取配水施設



構成文化財の写真一覧

19 一の口水門



22 板敷水門



20 磯崎眠亀記念館



23 蓮台寺



21 錦莞菴(きんかんえん)



24 由加神社



構成文化財の写真一覧

25 旧野崎家住宅



28 むかし下津井回船問屋



26 繊維製品



29 下津井節



27 下津井町並み保存地区



30 玉島町並み保存地区



構成文化財の写真一覧

31 旧柚木家住宅(西爽亭)

